
「成人もやもや病における血行再建術後の一過性神経脱落症状と 脳表静脈の赤色化との関連性の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2021 年 4 月から 2025 年 3 月の期間に埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科に入院され、もやもや病と診断され、手術を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

もやもや病の血行再建手術後には、一時的な神経症状（言語障害や感覚異常など）が約 25～61%の患者に発生すると報告されています。これらの症状は通常 2 週間以内に回復します。その原因は脳血流の変化に関係すると考えられておりますが、十分に解明されていません。また、手術中にこれらの症状の発生を予測する方法も確立されていません。

一方で、手術後に脳の静脈が赤く変化することが報告されており、これは血流の変化を反映している可能性があると考えられています。本研究では、この静脈の赤色化が一時的な神経症状の発生と関連するかを検証し、手術中の血流モニタリング指標としての有用性を評価します。特に、赤色の強度を数値化し、術後の神経症状発症の予測に活用できる可能性を探ります。この研究を通じて、手術後に発生する一時的な神経症状の仕組みをより深く理解し、より安全な手術につなげることが期待されます。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026 年 12 月 31 日

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後より 1 ヶ月後程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科で手術を行った成人もやもや病患者さんの診療記録、手

術記録から収集した年齢や性別、もやもや病の発症様式、脳血流検査、術中の脳表静脈の赤色信号強度の変化、術後の神経症状および持続期間など。

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者である武裕士郎が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

もやもや病と診断され、手術を行った患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究責任者 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 武 裕士郎

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター病院長 佐伯 俊昭

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中外科 武裕士郎

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4177（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：成人もやもや病における血行再建術後の一過性神経脱落症状と脳表静脈の赤色化との関連性の検討

○研究責任者：埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 武裕士郎